女勇者のおのれ

28後編

18

FOR ADULT ONLY

かぜうま

FOR ADULT ONLY
2017 Artist: KAZEUMA MINAMI✿STAR
@KAIJUNOANONE28Latter
ONENO SERIES:VOL057

あ♡
あ
はぁ♡
ん
ん♡
んむ……ん…
んふぅぅ
んぅぅ～～ぅぅん♡
んっ♡
あ♡
あ♡
やぁ
あ
あ♡
あ♡
やぁ
あ
あ♡
あ♡
やぁ
あ
あ♡
あ♡
やぁ
あ
あ♡
あ♡

お

いいねー
自分で腰振っちゃって♡

すっかり
エッチ大好きに
なっちゃったね

おら
尻もほじってやる
こっちに向けな

はっ
はいい

すきっ
しょもっ

ゆさ

しかし
完全に盛りのついた
セリアンの発情っぷりは
何度見ても
すげぇもんだな

最初の頃の
勇ましさが
欠片も残ってねぇぜ
どんだけ
エロ種族なんだよ

ほれ
咥えな

もともと
こいつらは一度
盛っちまうと
ほぼ間違いなく
着床する
らしいからな
こんな生殺しに
される事の方が
珍しいん
だろうよ

あちらのお二人は
すっかり現状を
受け入れてくれた
みたいですね～

あっ♡
あ～♡
ぎゅ♡
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ

こちらのお二人は
まだ嫌々な
ようですけど

……
ギリ…
う…っ
うう……
グズ

もう…
ゆるして……
どうか許してください…

いいですよ☆

……えっ!?

お二人は今日は
休憩に
してあげます

ほ…本当…に

ホントですよぉー
安心してください

ゆっくり休みながら
お友達が乱れている
姿でも

耳を
くすぐられるの
好きかい？

うん♥

みみっ

すきっ

きもち
いひっ♥

見物して
いてください♡

あふ……♡
ヌロ…

いい表情するようになったじゃねぇか
子宮が疼いてしかたねぇんだろ？
はっ
ごぁ…
はっ
こいつが欲しいか？
欲しけりゃ自分で広げておねだりしてみな
はっ
はっ
ほ…し
ほしい…っですっっ
すっかり素直になっちまったなぁ
ほーれ上手におねだりできたご褒美だお待ちかねの…
あっ
あっ
ここにっおちんちん挿入れてください…っっ
お願いします…っ
チンポだぜ♡
おお……！チンポに吸い付いて離そうとしねぇぜ♡
ぬぷぷぷ

う……っ

出すぞ…っ！

あぁ…っ

あぁ♡

ぐぐぐ

ぐぐぐ♡

ぐぐぐぐぐ

ぐぐぐぐぐ

おぉぉ♡

ふうっ

だいぶ奥まで
入るように
なったね♡

ぴくぴくっ

ぴくぴくん♡

ぴくぴくっ

ぴくぴくん♡

ぴくぴくっ

ぴくぴくん

あ
ん
はっ
はぁ
あ
あ
あ
あ
あ〜〜♡
♡
ぬちゃ
ぬちゃ
ぬちゃ

う……

うぅ……っ

じすっ

…ぅ…

ん？

何か言いましたか？

くだ……い

私……も…

犯して……ください……

おねがい…します……っ

あは♡

やっと素直になりましたね

でも犯してもらうにはご主人様にご奉仕しないといけませんよ？

これとか使って♡

…わかりますね？

は…はい…っ

ん…っ

お？

なになに

どーしたの
ずいぶんと積極的
じゃないの

ん…っ

ちゅぱ

ちゅぱ

ちゅぱ

なぁっ

なぁっ

はぁ…っ

はぁ…っ

はぁ…っ

はぁ…っ

あぁ…っ

はぁっ

くくく
物欲しそうな顔しやがって

よーし
そんな顔されたら
これ以上焦らすのは
かわいそうだ

抱いてやるから
ベッドに
上がりな

股開いて
欲しい方の穴を
自分で広げて
見せてみなよ

はっ

はい…っ

はぁっ

こっ

ここにっっ

ここにくだしやいっっ

はっ

はやく…っっ

はっ

ぶるるっ

はやく…おねがい
しますぅっっ

わかったわかった
お望み通り
一気に
突き入れてやる…

ぶるるっ

ヒクッ

ぜ♡

美味そうに
頬張りやがって
そんなにいいか？

はは

ぐぐぐ

ぐぐぐ

ぐぐぐ

ぶるぶる

あっ♡

あん

はぁん

ぶるぶる

イグ イグ
またイキます

ぶるぶる

はぁ

なぁ…

んっ あ♡

完全にタガが
外れちまってるな
お上品さが
欠片も残ってねえぜ

こうなっちまえば
あとはもう堕ちる一方だな

ん

んふ

んふーっ

ぐぐぐぐ

んふっ

あ♡

んふっ

んあっ

ぎゅ……

ズボッ

ぐぐぐぐ

あ♡

ぐぐぐぐ

……わ…

わた…し…にも

くだ……さい…

私…も……
おか…し…て
ください……

うふふ

こんなに
ねばったの
あなたが初めて
ですよ
フェンサーさん
新記録です♪

記念に
もう一回
くちゅくちゅ
してあげますね～

はーい♪
くっちゅ
くちゅー♪

んぶっ

んてっ

これでばっちり
発情しまくり
ですねー♡

さて……
それじゃあ

今日はもう
遅いですし

お開きに
しましょうか
みなさん

へーい

え……

あ……まっ
まって……

わっ
私もっっ

私……にも
い
挿れて…挿れてください
まって…っっ

ダメです♡

そんな…そんなっっ

おっ お願いしますっっ

おねがいしまっ
なっちゃうぅぅ

お願いしますっ
おねがい
じまずぅぅぅっ

もう限界
なんですっっ

Gすっ
みなさん
よーく見ておいて
くださいね

Gすっ
今後逆らったら
ああなります
からね～～

もう
逆らいません
っ

さがらいまぜんっ
がぢらああっ

おねがい

まっ…

ズミミミ
ん
ん

おねがいっ
犯さないで

明日以降は
最初から素直に
なれていると
いいですね

グズ

まっ

グズ

まっでぇ～

それじゃあ
また明日♡

パタ…

ガチャ
ふんふん
ふふ――ん♪
トン
トン
タッ
ヤタッ

おまたせ
しました～～♡
トろ～ん

ずっと放置しちゃって
すみません～
お三方の出荷に
時間かかっちゃって♡

マスラオさんなんて
馬車に乗り込むなり
おねだり
始めちゃって
るんですよ
笑っちゃいますよね

ぶふっ
んう
ふぐぅ
ふぅぅ
ガタ
くぅ～～っ
ガタ

ぶはっ
あ～ん♡
おおびべっ
ほえ～びあぶ
アウー

あはは
なに言ってるのか
わかりませんよ

今
外して
あげますから
あせらない
あせらない
ネチャ

おかっ
はぁ。
ガタ
ガタ
犯してください。
お願いしますっ
おねがいしますっ
ガタ
はぁっ
十月

仲間を売られたって
お話されているのに
おねだりですかぁ？
それしか頭に
ないだなんて
おがぢぇえ
おねがいイイ
しかたない人ですね

それじゃあ
くちゅくちゅ
しましょうか
あぅう
ぬち
ぬち
あれ――？
嫌なんですか？
もうちょっと
このままでいます？
そんな…
いぃっ いいえっ
くっ くださいっ
ください

はーい
くっちゅくちゅ～♡
うあ…
あ…ぁ

!?
ぺち
…っ…ぁ

そう
これが
あ…
なぁ
なぁ
なぁ
なぁ
ああ…♡
今日あなたを
慰めてくれる
おちんちんです
これ一本しか
あげません
どうすれば犯して
もらえるのか
わかりますね？
はっ はい
はいっっ

あぁぁ♡
ふふっ
首伸ばして
しゃぶりついちゃって
必死すぎません？
はぅうっ
ぢゅぷ
んぶぅっ
ぢゅぷ
んん
ぢゅぷっ
おちんちん
美味しいですか？
ぢゅぷっ

あ…
なんで
そんなに
挿入して
ほしいんです？
ほひぃ…
ほひぃぃれろぉぉ
んぢゅ
んぢゅ
んぢゅ
ずゅる
じゅる
じゅぶ
じゅぶ
ほひぃぃれろぉぉ
くちゃくちゃ
ぐちゃぐちゃ
あ…
なんで…

喜んで
ください？
あ…
あ…あ。
あなたがあんまり
浅ましく
欲しがるものだから
射精はあなたの膣奥で
してくださる
そうですよ
ふぁ…♡
ありがとうございますっ♡

ほら
避妊薬ですよ
はっ
はっ

さあ
目隠しを外して
あげますから
ちゃんとご主人様の
目を見て
おねだりしてください
はひぃっ
はひ♡

やぁ
しばらくだね

君の純潔を
奪った時以来だ
あれは実に甘美だったよ

先ほども
私の息子がお世話に
なってしまったね

はっ
はっ
はぁ
はぁ

ご褒美に
君の望むことを
してあげよう

そういえば
必死になにかを
求めていたね

さあなにがしてほしいか
もう一度
言ってごらん?

叶えて
あげようじゃ
ないか

ボロ
ボロ
ボロ
ボロ
ボロ
ボロ

私……を……

犯して……
ください……

ご主人様……

ふふ…っ
あの凛々しかった
貴女がこんなに
なるとは

いいでしょう
望み通り犯して
あげましょう

ぐすっ

ぐすん

ぶるぶる

はや……

ちゅ

ちゅぱ

ぴちゃ

ぴちゃ

おやおや

ぐしゃ

今更焦らすのは
少々いじわる
だったか…

くだ
ひぎぃ

な！

あ…
挿入だけで果ててしまったのかい？
あ～
ひくっ
いけない子だなぁ
あ
あ
あ
ざっ
主人の許しもなく勝手に達するなんて！
おや？
ごめんなさい
ごめんなさい
あ
あ
ガ
ガ
ガ
ガ
ビクビク
ビクビク

また達したのかい？
少しは我慢
したらどうだ

ずっと…
おあずけ
されでだがら
ガマン…
できまぜん…っ

あ…ずっ
ずっと…

そんなに私に突かれるのは
気持ちいいのかな？

い……ですっ

きもぢいい…っ

ぎもぢいいでずっ♡

ふふふ
そうか

では絶頂できたし
もう満足したかな？

ま…だ…

もっと…もっと
イギだいでずぅっっ

いっぱい
イがせで
ぐだしゃひっ

ふふっ
いいでしょう
では…

特別に今は
好きなだけ
イクことを
許してあげよう

あ……♡

ふう…っ
それにしても
貴女の締め付けが
きつくて私も早々に
達してしまいそうだよ

すみませ～ん
お楽しみ中
申し訳ないですけど
失礼しますね～～

お♡

ぐぷっ

はっ

お♡

先ほど
飲んでもらった
避妊薬ですが
実は～～～～

あれ排卵剤
なんですよ

ねっ

なんっ

えっ

えっ

今膣内に
出されたら
確実に妊娠
しちゃいますよ♡

えっ

おっ!?

ぞんなっ

おや
私の子を
身篭るのは
嫌かい？

しなっ

しなっ

おっ

ダメッ

らっ らめっ

わらひはっ
ぼうけんしゃらっ
のにっ

だっ…め

やっ

にんしんっ
だっ…めっ

ならっ
選ばせて
あげようか

あっ…っ

このまま膣で
精を受け止めるか
またしばらく
お預けされるか

あっ!

答えられないようなら
ここまでだよ？

あ…

あっ

まっ

まっ…てっ
くだっ…さいっ!

まっ

なにかな？

いまっ
ぬくっ…のはっ

や

もう…おあずけ

やら…あ

はっ

はっ…

じゅん

じゅん

2

1

ぐぷっ

では3秒だけ
待ってあげようか

ぜ…

ぬかないでぇぇ

ぬかないでください

なかだしこいぶらぁぁ

入れてぇぇぇ

…いいだろう

孕みなさい！

ドピュ

ドピュ

ドピュ

だいぶ深く
達したようだね

くぐっ

ひくっ

ひくっ

…放心して
しまっているか
うつとりした
いい表情だ

おこぁ

ひくっ

うぇえ……っ

おやおや
私たちの目も
憚らずに
泣き出すとは

うえぇ……っ

私の子を
身篭ってしまったかも
しれないからか…

うぁ…あ…っ

ずるっ

ずるるっ

ずびっ

えっぐっ

うぐ…あっ

僧むべき相手に
性行為を懇願して
しまったことを
恥じているのかな？

ひくっ

えうっ

それとも
一時の快楽を貪る事を
堪えられなかった
自分が許せないのか

うえぇっ

あるいはそれらが
入り混じって
のことかな？
実にそそる

それとも……

ぐちゅっ

未だ身体の疼きが
治まらないから…
かな？

選ばせて
あげよう

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

疼く身体を震わせ
また何日も耐えて
誇りを取り戻すか

ぐちゃ

服従の
誓いを立てて
私の気の済むまで
抱かれるか

やぁ…あ

ぬちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ

まさか
こうもあっさり
受け入れるとは…
プライドも
どこへやら
完全に肉欲の
虜だね

いいのかい？
せっかく拘束を外して
あげたというのに
抵抗しなくて
逃れるチャンス
なんだよ？

ていこ…うっ
したらまた
おあずけ…それ
ひゃうっ

しかし
抵抗しなければ私に
孕まされてしまうよ？

それなら楽しまなければ
損というものだね
思う存分愉しみたまえ

ははは
これだけドロドロに
なっているのに
お利口じゃないか

この吸い付き…！
実に名器だ

お…ぁ

なに

ぢゅっ

ん？
どうしたんだい？
力が抜けてしまって
いるようだが

ニ…ニゃ

あ…こ」…腰から下…が…
自分のじゃ…
ない…みたい…に…

ちか…ら…
はいらなくて…

ひっ

また気をやったね
何度目だい？

ぴくっ

腰が抜けたか
しかし君は私の
性奴隷(ペット)だ
私が満足するまで
休憩は出来ないよ

ぴくっ

お

あ…

ああいいっ
実にいい具合ですよ
絶頂しっぱなしの
貴女の膣は！

意識も飛び飛び
なのに吸い付くのは
やめようとも
しない

しかし私もそろそろ
限界だ…これで
フイニッシュにすると
しましょうかッッ

子宮で
受け止めなさい！

ぺちっ

ぺちっ

ぺちっ

ふん♪

ふん♪

ふんふん
ふふーん♪

今回はけっこう
いい額になりましたね♡

ピッ
ピッ
ピッ

姉さん
いますか？

はーい
なんですー？

パタパタ

こないだの
シャーマンの娘を
買ってった客
なんですが

あーあの
変態オヤジですか

なんです？

なんでも
前のよりも強力な
薬を調合して
ほしいそうで

あれよりもですか？
せっかくの性奴隷（ペット）を
壊したいんですかね

どうしようもない
オヤジですね

なあ

はいどうぞ
これを渡して
ください

へい

でもこんなの使って
壊れちゃっても
知りませんから

それじゃ
さっそく♡

!?

ぶぐぅ

なにをぶっ

んぐっ

バタ

バタ

やめなはぶぐうぇっ

おとなしくしてて
くださいよ
俺ら姉さんと違って
加減がよく
わかんないんすから

…は……っ

なっ……
なんの真似ですか
これは…！

あなたたち
こんな真似してタダで
済むと思って
ないでしょうね

いやぁ
実はあのオヤジ

姉さんを性奴隷(ペット)に
したがってまして
ですね

一目惚れ
だそーです

俺ら全員に
目ン玉飛び出るような
大金出すっつーんですよ

なんで

今から
姉さんを調教して
引き渡しますんで

ふざけてんじゃ
ないですよ
誰がそんな…

ふざるなんて
とんでもない

俺ら姉さんの
薬の力知ってますもん

うぐっ

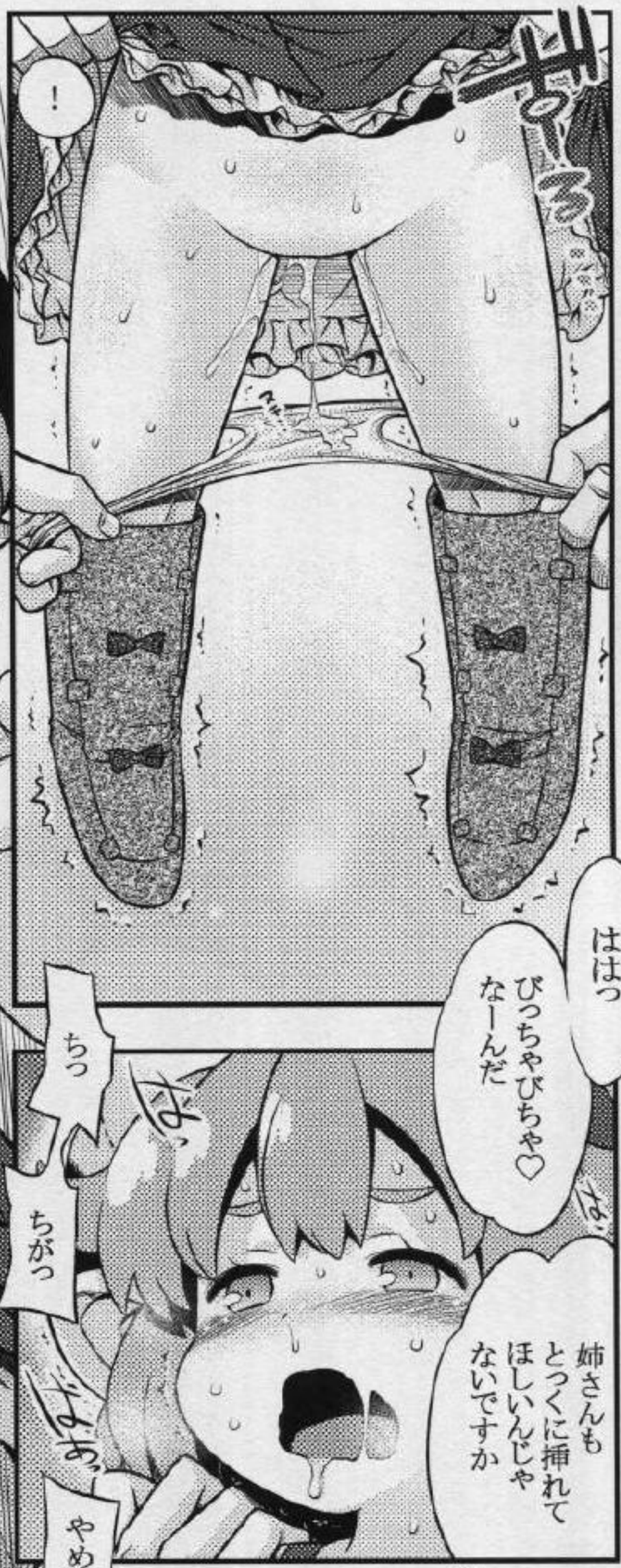
やめ

ほら強がってても
もう乳首(ここ)もビンビンに
勃ってますよ

かわいい声出せる
じゃないですか
姉さん♡

へへへ…
ここはどうなって
ますかね

ぢゅやぢゅっ


!
はははっ
びっちゃびちゃ♡
なーんだ
姉さんも
とっくに挿れて
ほしいんじゃ
ないですか
ちっ
ちがっ
やめっ

はは
てろてろ
これなら
即ハメOKスね

ぐっちゃぐっちゃに
濡れてて具合いいっスよ
姉さんの膣(なか)内♡

ぐぷっ

ぐぷぐぷ

ぐぷっ

ぐぷっ

ぐぷっ

さあ
こっちも開発
しちゃいま
しょうか♡

お

あ…♥

あ!?

あひぃぃ

おひーぃぃ

ほおーら
挿入(はい)った♡

さっすが姉さん
ビッチの才能
ありますよ

おねがいっ

おろしてっっ

おろしてええ

お腹が熱いっっ
ジンジンするっ
おまんこ
切ないよおっっ

ぐじゅ

さわらせて
よぉぉ〜〜っっ

ダメっすよ
姉さん
自分(オナニー)でなんて
させませんよ
姉さんにあげるのは
俺らのチンポだけです

じゃあちんぽ
ちょうだいっっ
ちょうだいよおおっっ

はははっ
即堕ちじゃあ
ないですか
元々ビッチ
なのか

じゃなけりゃ
よっぽどヤバイ薬(の)
調合したんスね
さすがっス

ぼた
ぼた
もじ
もじ

心配しなくても
全員で輪姦(まわ)して
あげますから

ほら……よっと！

むぎゅ

コツ
コツ
コツ
仕上がりが
予定よりもだいぶ
早かったね
ええとんだ
ビッチですよ
放っておくと
すぐにオナニー
始めちまうんで
拘束して転がして
あります
薬は定期的に
嗅がせてるんで
発情しっ
ばなしですよ
ガチャ
ふふふ
それは愉しみだ
たっぷり慰めて
やらんとのう
ふぁ…♡
はっ
はっ
はっ

これは
これは……

ぺろっ

そんなに
ワシが
待ち遠しかった
のか愛いやつめ

なぁ～♡
ほっぺに
したにれ
しゃぶって

ほっほっほ
ならば今すぐ
皆の目の前で
するか？

ぞくぞく♡

――数カ月後

すっかり
大きくなったね
すぐにでも
産まれそうだ

ふふっ

君によく似た
可愛らしい子だと
いいね♡

出産がすんだら
すぐに次の子を
仕込んであげるよ…
君には十人は産ませる
つもりでいるから
そのつもりでね

……ぬぐ…

お

はっ

あ♡

あ

あ

あ

ぐぐぐぐ

ぐちゅ

ぬちゃ

ぬちゃ

君のいたギルドの
リーダーだった
フェンサーの娘そろそろ
臨月だそうだ

どうだ
うらやましいかい？

ぬぬっ

うら、
うらやま
しいっ♡

ぬぬっ

ひ

ひ♡

ぬぬっ

わらひもっ
ごしゅじんひゃまのっ
孕みたいれすっっ
いっぱい
種つけして孕ませ
くりぇひゃいいイグ♡

そうかそうか
君もそろそろ
授かれるといいね
・・・・
ほらいつもの
排卵剤だよ

なっ

はっ♡

なっ

なっ

なっ

なっ

なっ

くふうっ
うまくなったもんだねぇ
良かったよ

はっ

はいっ

ありがとう…
ございます…っ

じろ…

あ……あの……
ご主人様の……お情けを
私の…ほとへ……
いただけませんか……

ふふふいいだろう
君もすっかり
淫乱な娘に
なったものだな

おお…っ
締まりよる
こりゃたまらん
出すぞ…！

ぐちゅ

れれるうう♡♡♡

はぁ……っ♡

ふう…
さて次は…

ん？

なんだ
また勝手に
自慰(オナニー)を
しておるのか

あ

あ

あ

これは仕置きに
今日もおあずけ
だな

ぞんなぁっ

ごめんなさいっ
ごめんなざいっっ
どうかゆるじで
ぐだざいぃ〜〜っ

もうおあずけ
じないでえぇ…っ
おぢんぢん
ぐださひいイイッッ

ひっと

ぐすっ

お…

自分の指じゃ
奥まで全然
届かないんですっ

ご主人様の
おちんちんじゃないと
膣(なか)イキでぎないよぉ

まったく
しようのない娘だな
今回だけだぞ？

おあずけ
され続けて
てろってろになった
ぐずぐずマンコを
味わおうかの

あ

ちんちん♡

三日ぶりのぉ♡

そうそう
そういえば君を
裏切って売った
連中だが

無事全員
魔物の餌に
なったようだぞ

お

あは♡
ありがと
ございましゅ♡
でもあんな奴ら
どうでも
いいですっ

ご主人しゃまの
おちんちんさえ貰えれば
なんにもいりませんっっ♡

愛い愛い
可愛い
やつめ

あん

あ

さあ…
今日も思う存分
可愛がってやろう

はぁ…

ぁ…

―あれから、いったいどれほどの時が経ったのか。暦を数えることも忘れる恥辱の日々を送った少女。
彼女は今、街外れにある孤児院のシスターとして子供たちの面倒を見ていた。屈託のない笑顔を見せ
集まってくる子供たち。子供たちは彼女にとてもよく懐いてくれた。彼女は子供たちに「ママ」と呼ばれていた。
その度に嬉しさと、愛おしさと、そして心に刺さる痛みを、彼女は感じるのだった。

何度も陵辱と出産を繰り返させられた少女は実に11人の子を産み落としていた。
孤児院に預けられた子供たちの人数は、11人。しかし名乗ることは許されない。その事が伝われば、たちまち
孤児院への出資を止められてしまうからだ。これだけの子供たちを自分の力だけで養う術を彼女は知らない。

自らを、執拗に陵辱した男の子供たち。憎くないと言えば嘘になるかもしれない。しかしそれでも、
彼女は子供たちを憎みきることはできなかった。どれほどあの男が憎くとも、この子たちに罪はないのだから。
葛藤を抱えながら、勝手も分からず、それでも精一杯の愛情を持って接するうちに、自然と子供たちを
愛せるようになった彼女。今、ようやく、あの男の手の平の上の仮初とはいえ、平穏を手に入れたのだ。
ある日、子供たちにここに来る前は何をやっていたのかと尋ねられる彼女。まさか奴隷であったなどと
言える訳もなく、つい言葉にしてしまった一言。

「私は【冒険者】をやっていた」のだ、と

未だ踏破されぬ伝説の世界樹。子供たちは目を輝かせ言い聞かせる冒険の話に耳を傾けた。
それからまたいくばくかの時が経ち。長女が、大好きなママの果たせなかった世界樹踏破を
自分が叶えるのだと、【冒険者】としてアイオリスへと旅立っていった。
正直なところ不安であり、何度も思い直すよう求めたが長女の意思は固く、引き止めるには至らなかった。
自分では数度足を踏み入れただけで、強制的に終わらせられてしまった世界樹の迷宮での冒険。
まるで若き日の自分の生き写しのように育った娘が、日々の出来事を書いてよこす手紙には、
かつて夢見た心躍る冒険が綴られている。
羨望と、少しばかりの嫉妬を感じながら、娘の充足に目を細める日々も、そう長くは続かなかった。
毎週欠かさず送られてきた娘からの手紙が途絶えてしまったのだ。
迷宮は危険な場所。自分がいた短い間でさえそういう話はいくつもあった。
それでも娘の無事を祈らずにはいられない。どうか、手紙を書く時間さえないほど忙しいだけであってほしい。と。

手紙が途絶えてから一月と少しのある日、その日も娘の無事を神に祈っていた彼女は、
数年ぶりに　あの男　から呼び出された。
気は重かったが他の子たちのためにも断ることは許されない。

「お久しぶりです。ご主人様」

頭をたれる彼女を、かつて自分を最高に辱める時に見せていたあの下卑た笑顔が出迎えた。
暗い思い出しかない屋敷を男に従い歩く。そこに近づくたびに重くなる足取り。震える手足。高鳴る動悸。
何度も何度も辱めを受けた「あの部屋」の扉を、自ら開くよう促される。
意を決し、重い扉を開く。

そこで　彼女が見たものは――――――

■誌名　：世界樹のあのね２８　後編
■発行　：かぜうま
■発行者：南☆
■発行日：2017年2月26日
■連絡　：isogai@big.or.jp
■印刷　：ねこのしっぽ

※未成年者の所持閲覧を固く禁じます
※無断転載・複製、ネット上へのアップロードは厳禁です